

# 審 議 会 等 の 会 議 結 果 報 告 書

		課所名	健康推進課健康支援係
会 議 名	令和5年度第1回 諏訪市自殺予防対策推進協議会		
開催日時	令和5年8月8日（火） 午後1時30分 ～ 午後3時		
開催場所	諏訪市保健センター 2階多目的ホール		
出席者	<p>（出席者）</p> <p>協議会委員：</p> <p>宮野孝樹会長、 藤原希美副会長、 清水俊樹委員、 井上昭子委員、  原田久子委員、 竹内幸子委員、 桜井幸雄委員、 寺尾一成委員、  名取まゆみ委員、 小口むつみ委員、 牛山理恵委員、 白鳥和美委員  真鍋一郎委員 藤森哲也委員</p> <p>金子ゆかり市長、 守屋和則健康福祉部長、 濱秀憲健康推進課長、  小口直子健康支援係長、 河西優那（保健師） 大河原とおみ（保健師）</p> <p>（欠席者）</p> <p>協議会委員：宮坂翔委員</p>		
資料	別添		
協議議題（内容）及び会議結果（要旨）			
<p>1. 開会（健康推進課長）</p> <p>2. 委嘱状交付（市長より交付）</p> <p>3. 市長あいさつ</p> <p>自殺の状況はニュース等々で見るたびに胸が痛む。5年前に計画策定をし、H31年度を初年度とし本年は最終年度。コロナ前では自殺者は低減の傾向にあったが、コロナと共に増加傾向となっている。諏訪市の自殺者数は年間一桁台であるが全国となると大きな数字。若年層の自殺はもったいなく悲しい。1人でも元気にし、夢のある世界へ転換していかなければならない。皆様におかれましては、専門の知見を合わせて計画策定に向けてよろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>4. 委員紹介（委員名簿）【資料1】</p> <p>5. 会長、副会長選出</p> <p>事務局：推進協議会の要綱に従い、この会の会長、副会長を互選にて選出していただきたい。（互選なし）</p> <p>事務局に腹案があるがよろしいか？ ⇒異議なし</p> <p>会長には、チャイルドラインすわ宮野孝樹委員、副会長には諏訪保健福祉事務所の藤原希美委員にお願いしたいがいかがか？ ⇒異議なし</p> <p>会長挨拶</p> <p>自殺総合対策大綱が制定、施策のおかげもあり、2012年は自殺者数が2万人台まで下がった。諏訪市が計画を立てる際に参考にした2018年は、2万840人に減少。コロナ禍になり、女性と10代の自殺者が増え2万1881人。大きな数字になると人ごとになりがち。諏訪市内2013～2022年の</p>			

10年間の自殺者数は88人。年平均9人。他人事ではない。自分事として。自殺はいつどこで起こるかわからない。今回、様々な団体の方が集まっている。協議会第1期の見直しと第2期の策定が目的。

副会長挨拶

自殺の現状は県として、1日に1人が自殺で亡くなっている。R4年度はコロナが明けて全国的にも、長野県でも自殺者が増加。計画策定に向けより良い計画になるとよい。

(市長公務により退席)

## 6. 議事 (進行: 会長)

### (1) 諏訪市における自殺の現状について

事務局より説明。【資料2】参照

### (2) 第1期推進期間における市及び関係機関の取組について

#### ① 病院関係者 委員

気持ちの落ち込みや眠れない等色々な症状のある患者さんの中に自殺傾向のある患者さんがたくさんいる。本人の許可を得て関係機関と連携している。複合的な問題があるので、本人の全ての問題に対してサポートし、つなげる。

#### ② 教育関係者 委員

中学校では、SOSの出し方教室を5~7月の夏休み前に担任やスクールカウンセラーが実施している。生徒たちからは「自分を守るために覚えておきたい」「相談の大切さを実感した」「自分の悩みだけでなく友達の悩みにも気付きたい」など感想があった。

#### ③ 行政関係者 委員

長野県ではR4年度の自殺者数は男女共に増加。男性のほうが自殺者数は多いが、未遂者は圧倒的に女性が多い。県では1日1人亡くなっている。県では、第4次自殺対策推進計画をR5~R9年度の5年の計画を策定した。重点施策としては、子どもへの支援の拡充と新たに自殺未遂者への支援を追加している。

#### ④ 地域・福祉関係者 委員

子ども専用の電話。18歳以下の子供がフリーダイヤルでかけられる。問題解決が目的ではない。子供の話聞き、一緒に考え、子に寄り添う。多様性を認め、一人ひとり違っていいよと伝えている。

人間関係で苦しいという思いで電話をかけてくる。電話をかけてくる子は力のある子。電話する動機は誰かにつながりたいという人が多い。先進国の中で10代の子供の死因が自殺という国は日本だけ。

## 7. 協議

### (1) 第1期計画の検証及び自殺に係る意見交換

検証 事務局より説明 【資料4】参照

意見交換

#### ① 地域・福祉関係者 委員

小中高生へ SOS ミニレターを各学校に渡している。子どもたちが学校や家庭の悩みごと、困りごとをミニレターに書いて送ると無料で法務局に郵送される。担当者が回答を送っている。自殺の関係は意外に少ない。SOS ミニレターは新年度に新たな友人関係で悩むのか 6、7月が多く、夏休み前も多い傾向にある。

②教育関係者 委員

信頼関係がないと相談しない。身近な存在でいられるように日々子どもと関わっている。スクールカウンセラーなど専門家につなぐことも心がけている。関係機関に入ってもらい家庭への支援も必要だと感じている。

③地域・福祉関係者 委員

子どもたちの悩みの深さを感じる。主に小さい子、若い母と関わる。「頑張っているね」など本人たちへねぎらいの声掛け、少しでも相手の気持ちが和らぐようにと心がけ活動をしている。他人からのねぎらいの言葉で受け止め方も変わってくると思う。

④医療関係者 委員

10代の方の自殺率が諏訪市は県平均と比べると高いという話を聞くと止めていかないといけない。いつもと行動パターンや様子が変わっていく。周りがおかしいと気づくことが必要。「死にたい」と言うことはすごくエネルギーがいる。ものすごい勇気と信頼を持って言ってくれるので重く受け止める。話をそらしたり「そんなこと言っちゃいけない」とは絶対に言ってはいけない。「よく言ってくれたね」と言える場を作らないと救えない。短期的に命は救えるが、社会が変わらなければ行政が関与しないと助けられない。長期的な予防も必要。

会長

第1期の計画をやる中で「気づき、繋げる」対策としてある。住民の近くで活動している民生児童委員や子どもと接している養護の先生や、職場の健康管理に携わる方、そのような方たちが早く気づき専門家につなげる。1人でも多くの人を自殺から救えると良い。第2期の計画では意識向上実践方法など具体的に考えられればよい。

(2)第2期計画の策定スケジュールについて 事務局より【資料5】参照

本日含め協議会は3回（赤字で記載）。素案は事務局と会長で協議し、国の視点も含めて作成する。10月に通知を送るので2回目の協議会までに各自目を通してください。11月の第2回協議会で素案の検討・意見をいただく。12月に修正、1月にパブリックコメント実施、2月下旬に第3回協議会、3月に策定予定。

【質疑】

・地域・福祉関係者 委員

LGBTQなどマイノリティーの問題も盛り込んでもらえたら。特にここ2ヶ月LGBTQの法案の審議もあった。最近タレントさんの自殺もあった。ぜひ検討をお願いしたい。

議長解任

8. その他（事務局）

第2回協議会日程 令和5年11月1日（水）午後1時30分～ 諏訪市保健センター

9. 閉会

副会長

活発なご意見ありがとうございました。自殺の原因は複合的。皆さんの支援が生きることにつながっている。共有したことが支援者の一歩。関係機関連携することが大切。

（終了 15:00）